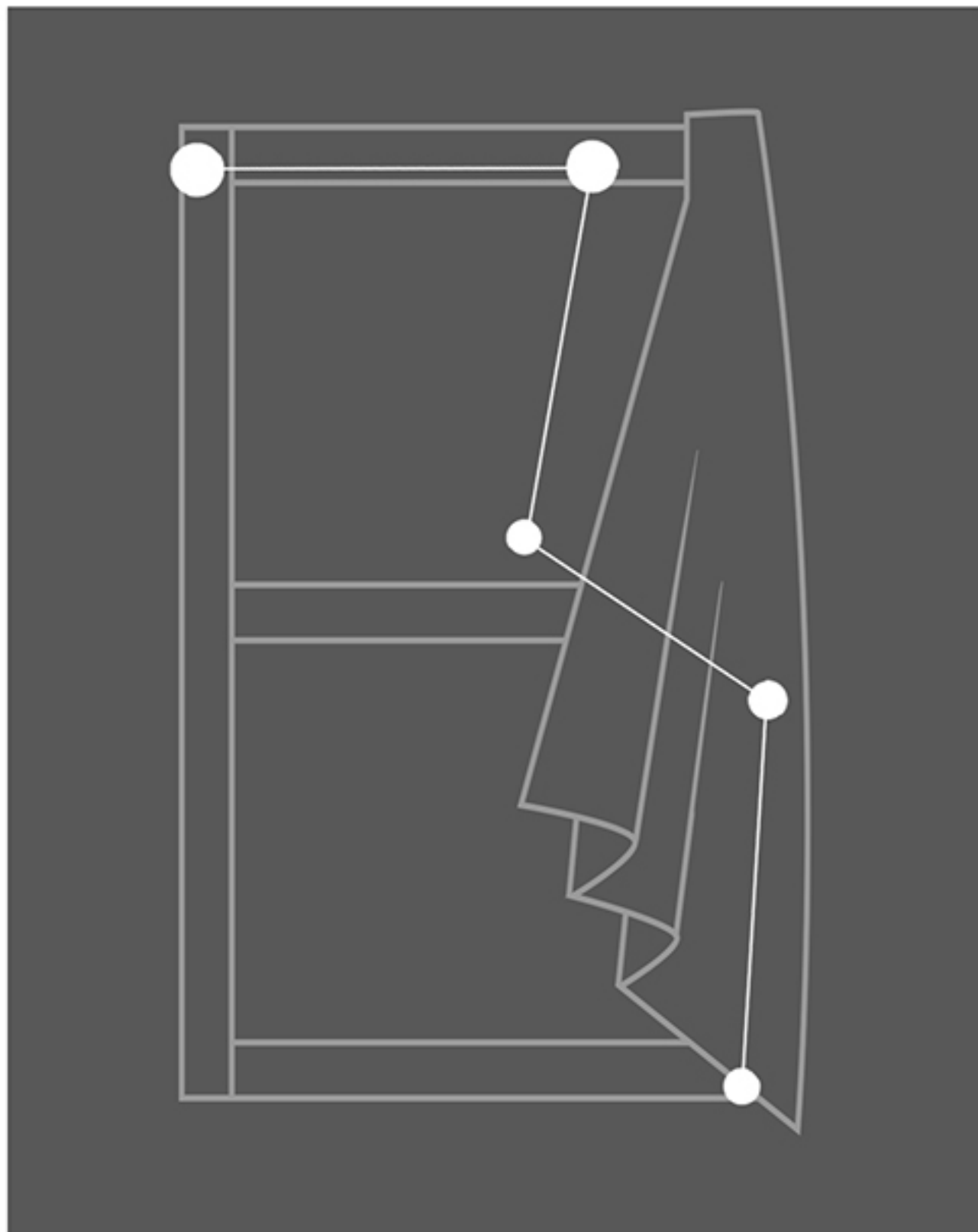


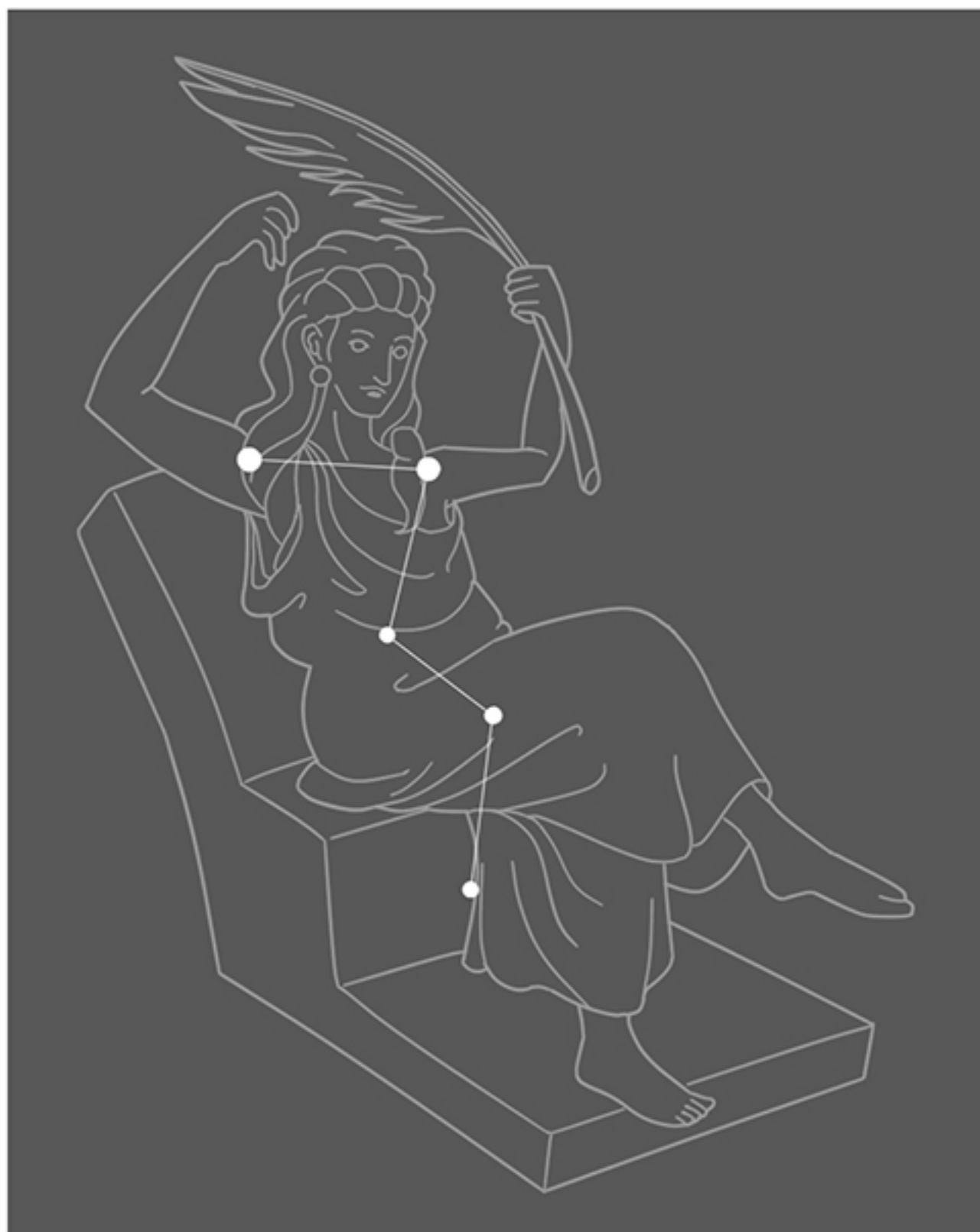
■家のリズム座



阿部修一郎は青森県で生まれ育ちました。2022年の春、父親から今まで住んでいた家を建て替えるという話題が出ました。修一郎は家を取り壊されたら自分や自分の家族、親戚がこの家で過ごした記憶が失われるのではないかと不安になりました。そこで修一郎はカメラを持ち出し、家の中の様子を記録しました。映像には足音や電灯の揺れ、窓から差し込む日差しなどが映っており、独自のリズムを持っていました。

撮影した映像を独創的な映画にして残した修一郎の功績を讃え、星座になったのが「家のリズム座」です。修一郎が住んでいた家はすでに取り壊されましたが、そのリズムは天空に響いています。

元になった星座：カシオペヤ座



エチオピアの王妃カシオペヤは王のケフェウスと美しい娘アンドロメダと仲良く暮らしていました。ある日、カシオペヤは海の精霊たちに自分や娘の美しさを自慢しました。

それに腹を立てた神々は怪物くじらに国を襲わせました。カシオペヤは娘のアンドロメダを生贄にすれば国を救うことが出来ると神託を受け、娘を海辺の岩場に鎖で繋ぎました。

そこへメデューサを倒した後のペルセウスが通りかかり、メデューサの頭を使って怪物を石にしてアンドロメダを助けました。

自慢をしたり娘を生贄にした罰としてカシオペヤは椅子に縛り付けられ星座にされました。24時間休む(沈む)ことなく空の上をぐるぐる回っているのが「カシオペヤ座」です。

■ えり座



櫻井絵里は幼少の頃、両親から不適切養育を受けて育ちました。大人になるまでそのことに気付かず、長い間うつ病や複雑性PTSDに苦しんできました。しかしアートや読書を通して多くの知識を身につけ自分で自分を育ててきました。絵里は病と戦った10年の間に何度も両親と和解しようとしたがついに叶わず、新しい家族を作る旅に出ました。絵里は数々の試練に遭遇しますがその途中で生涯の伴侶となる人や、病を治すカウンセラーと出会うことができました。一人で立ち向かえない問題が起きた時は、共に戦ってくれる仲間もできました。病や希死念慮にも負けず前に進もうとする絵里の強さを讃え、星座にしたのが「えり座」です。

元になった星座：ヘラクレス座



ヘラクレスは神々の王ゼウスと人間のアルクメネーの間に生まれた半神半人の英雄です。しかしゼウスの妻ヘラはヘラクレスに嫉妬し呪いをかけました。呪いによって狂ったヘラクレスは、自分の妻と子を殺してしまいます。正気に戻り自分の行動を後悔したヘラクレスは妻の兄であるエウリュステスの元を訪れ、どんな苦難を受けても罪を償うことを誓います。エウリュステスはヘラクレスに「12の試練」を課し、ヘラクレスはそれを10年かけて見事に成し遂げました。その後ディアネラという妻を迎えますが、彼女はヘラクレスの浮気を疑い、「ネスソスの毒の衣」を着せました。ヘラクレスは毒に苦しんだ後自ら火を放ち命を絶ちました。ゼウスは「ヘラクレスの人の部分は死んだが、気高い神の部分は残っている」と宣言し星座にしたのが「ヘラクレス座」です。

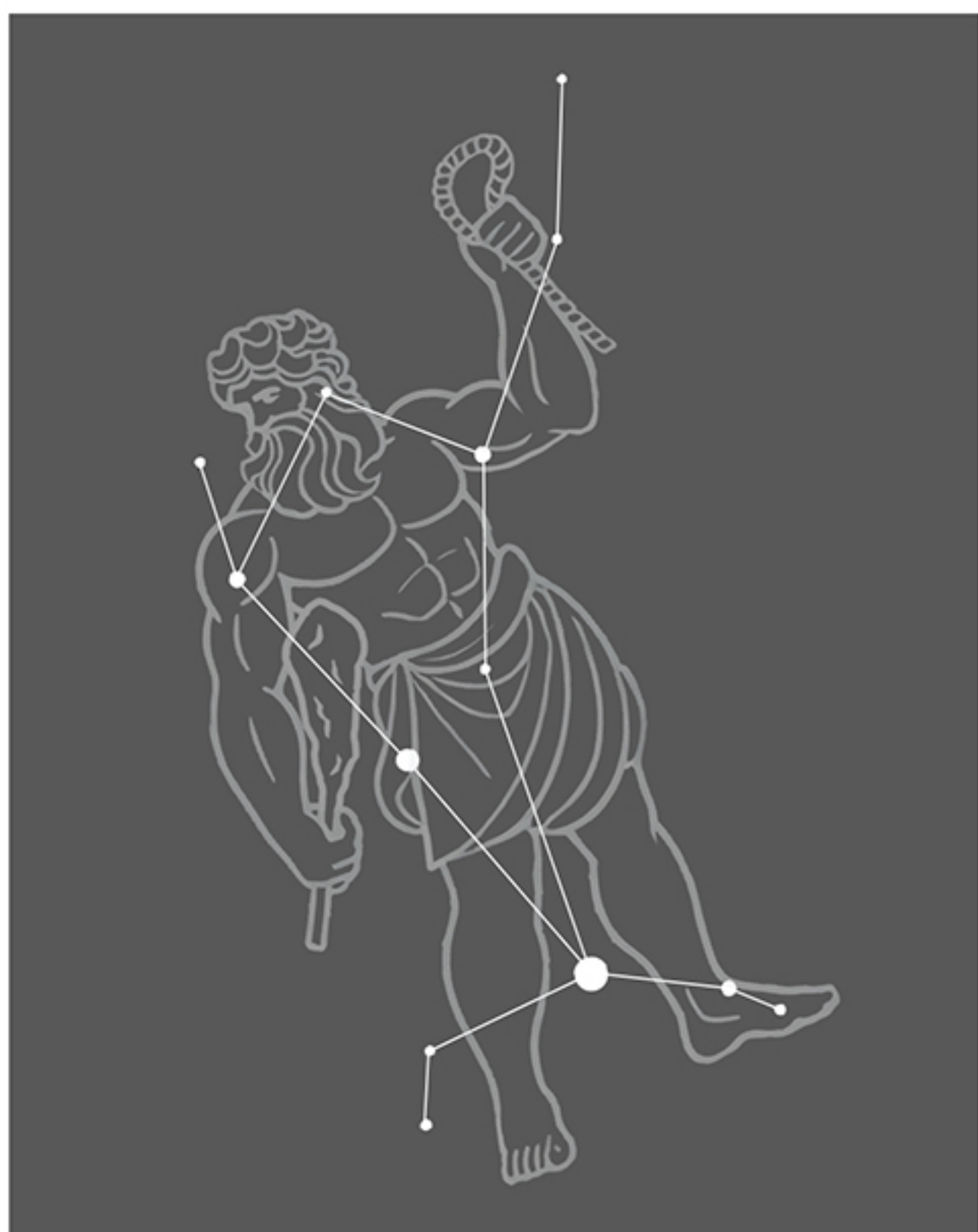
■祖父母の家座



舟之川聖子の故郷には祖父母の家がありました。聖子は学校が長い休みに入るといつも家族と一緒にその家で過ごしました。その後聖子の家族には様々なことが起こり、聖子が家に行く機会は少なくなりました。祖父母が亡くなった後も、家は聖子の両親が守ってきました。それから30年たったある日、聖子の両親はこの家を手放すことに決めました。聖子は家との別れを惜しみ、何かしたいと考え家と自分の写真を撮ったり、戯曲を書いて家との思い出を何とか記憶に残そうとしました。

聖子の家に対する深い親しみと愛、それを残そうとする創造力を讃え星座になったのが「祖父母の家座」です。家が無くなった後も、聖子が空を見上げればいつでも家に会うことができます。

元になった星座：うしかい座



ゼウス率いるオリュンポスの神々は、巨人の一族であるティターン神族と戦い、大勝利を収めました。ティターン神族の1人アトラスは、神々に逆らった見せしめとして奈落に落とされ、1人で神々が住む天空を支えるよう命じられました。

アトラスは長い間ずっと1人で天空を支えました。ある日、英雄ペルセウスがメデューサの居場所を教える欲しいとアトラスのところにやって来ました。アトラスは教える代わりにメデューサの首を自分にも見せてほしいと頼みました。ペルセウスは約束通りメデューサの首を彼に見せました。アトラスは石になり辛い役目から解放されました。その後アトラスはアフリカ大陸にあるアトラス山脈になったと言われています。そして天に掲げられたのが「うしかい座」です。

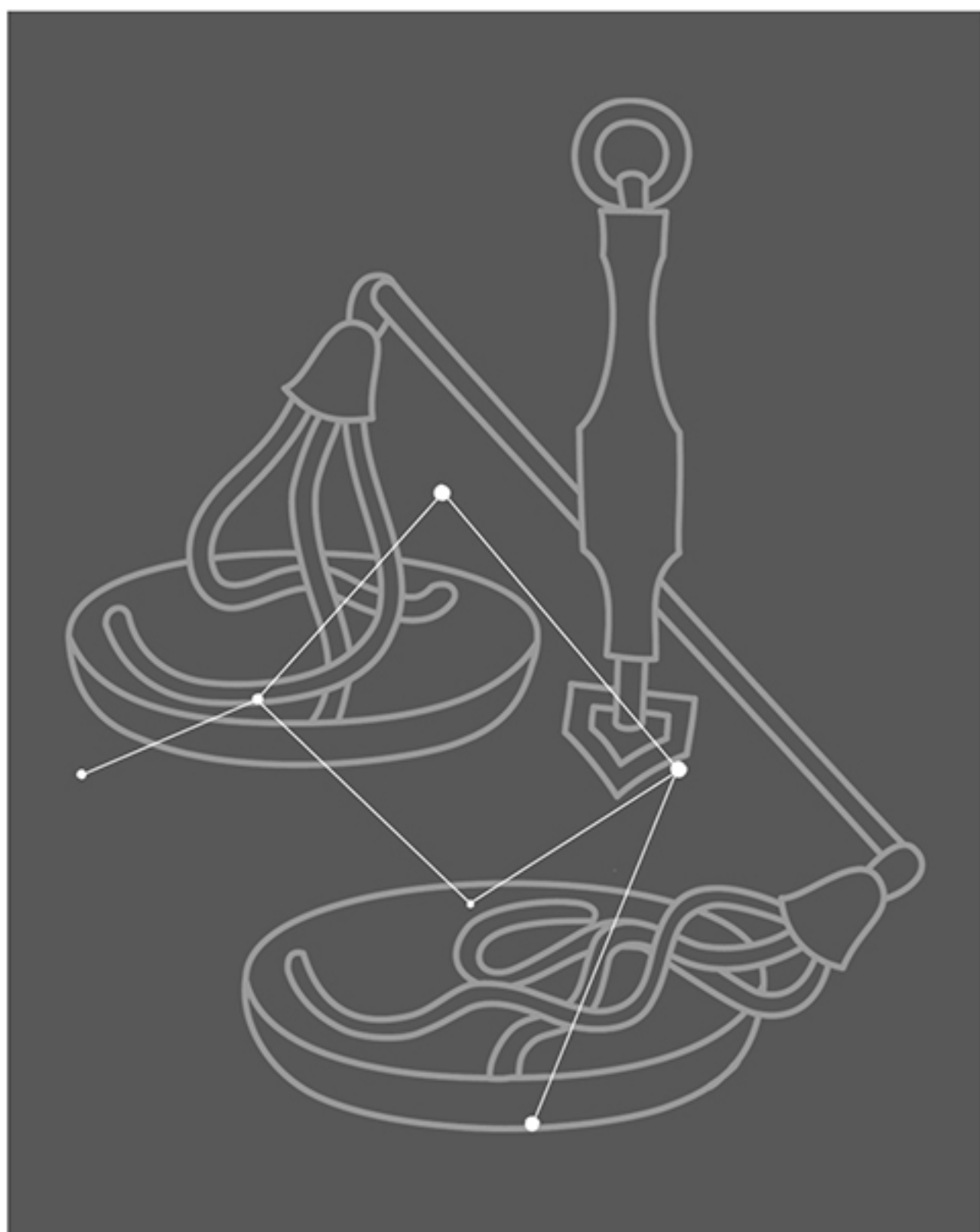
■メリーさんの電話座



Miyabi Starrは、日本の戸籍制度に以前から疑問を抱いていました。制度が多様な人の在り方に対応しておらず、その枠に当てはまらない人達を苦しめていると感じたからです。制度からこぼれ落ちた人達にも人権があるということを当事者性をもって多くの人に伝え、対話を試みるためにMiyabiは「メリーさんの電話」を作りました。

創造性を発揮し立場の弱いものの存在を訴え、誰もが安心して暮らせる世界を目指して実践を続けるMiyabiの活動を讃え星座になったのが「メリーさんの電話座」です。

元になった星座：てんびん座



正義と天文の女神アストレアはどちらが正しいかを測る天秤を持っていました。人々が争いを始めると天秤を使って善悪を測り、天界と人間界の間で正義を守っていました。

しかし人間界は徐々に争いが増える世界になっていきました。人間は真実や正義、謙虚などを失くし暴力や欺瞞などの罪悪が広がりました。

多くの神は人間に愛想をつかし天界に帰ってしまいました。しかしアストレアは最後まで地上に留まり天秤を使って正義を伝え続けました。その努力も虚しく人間は争いをやめることはありませんでした。ついに彼女も天界へ帰ってしまい、天秤は使われなくなりました。その天秤が天に掲げられたのが「てんびん座」です。

■祖母と孫座



横井るつは小学1年生頃まで祖母と一緒に団地に住んでいました。窓や玄関からは様々な団地が見えます。その後るつは別の家に引っ越したので当時の風景を覚えていたり、いなかったりします。大人になったるつと祖母が団地の景色を見ると祖母はるつが知らない話を呟きます。るつは子供の頃に見たはずの景色を思い出したり、覚え直したりしながら祖母と話します。一緒に住んでいた時から15年以上たった今もるつと祖母は仲が良く一緒に写真を撮ったりして過ごしています。2人の祖孫の絆を讃え、いつまでも一緒にいられるよう天の星座にしたのが「祖母と孫座」です。

元になった星座：ふたご座



カストルとポルックスは神々の王ゼウスとスパルタの王妃レダとの間に生まれた双子の兄弟です。兄のカストルは普通の人間でポルックスは不死身の体を持っていました。2人はとても仲が良く勇敢な戦士に成長しました。

ある日2人と従兄弟にあたるイダス兄弟との間に戦いが起こりました。2人は戦いに勝利しましたが兄のカストルは流矢に当たり命を落としました。弟のポルックスはとても悲しみ、自分が不死身であることを責めました。ポルックスはゼウスに自らの不死性をカストルに分け与えることを望みました。2人を哀れんだゼウスは双子がいつまでも一緒にいられるように「ふたご座」にしました。